「全体会」まとめ

2 日目は分科会の続きから始まり、慌ただしく会場を移し、締めくくりの全体会となった。全体会では 4 分科会から手短に報告され、次年度開催地の千葉からの挨拶へと続いた。さいごに、私から「まとめ」の発言を行った。「要約筆記」のため事前に送付した原稿を紹介したい。

最後に司会を担当させていただいた私から、今回の交流集会の感想とお礼の挨拶をさせていただきます。「第 13 回障害児の高校進学を実現する全国交流集会 in あいち」は、 名の方が参加され、昨日からの 2 日間の日程を終わることになりました。本集会のテーマは「いっしょに行こまい！高校も！ ～様々な「障害」のある子・社会的「排除」にあう子の進学希望をかなえるために」です。このテーマを中心に、全体会・分科会の場で、ともに学び議論し、交流を深めてきました。

全体会の講演で、寺脇研先生は「私が実現した高校の希望者全入～適格者主義の呪縛を超えて」と題し、広島県教育長のときの経験などを語られました。じつは、今年 1 月に寺脇研先生と前川喜平さんの共著『これからの日本、これからの教育』を読み、適格者主義というのを恥ずかしながら初めて知りました。文部行政を担ってきた、お二人の言葉から、適格者主義の呪縛を超えて、高校の希望者全入への道に展望と確信をもちました。昨日の寺脇先生の講演と質疑により、その確信が深まりました。ただし、昨日と先ほどまでの分科会の報告から、障害のある子、社会的排除にあう子の高校進学は、まだまだ厳しい現実であることを改めて感じました。憲法に明記された一人ひとりの「学ぶ権利」を保障していくために、これからも声を上げ続けなくてはなりません。

私はこれまで「時間軸」と「地域軸」という二つの軸から、問題を考えてきました。過去、歴史から学び、他の地域の経験と教訓から学ぶことです。この全国交流集会も、こうした「時間軸」と「地域軸」から、組み立てられてきたと思います。

愛知県刈谷市総合文化センター アイリスで開催された第 13 回全国交流集会の成果が、全国に広がり、次年度以降に引き継がれることを願ってやみません。

この集会は実行委員会により準備してきました。私も実行委員の一人ですが、昨年 12 月に大阪に転居して、ほとんど力になりませんでした。川本事務局長をはじめ、精力的に集会を準備してきた諸団体、実行委員の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

最後になりますが、昨日の全体会から分科会、そして今朝の分科会から全体会へと、会場の都合などもありまして、非常にきついスケジュールになりましたことをお詫びします。そのような日程のなかで、ご参加の皆さまには円滑な運営にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。

以上が原稿であるが、すこし時間に余裕がありそうなので、いくつかダジャレを交え付け加えることにした。二点だけ紹介したい。

ひとつは、先ほどの第 1 分科会で観た映像の感想である。沖縄の仲村伊織さんの学校生活がリアルに映し出され、心に迫るものがあったと述べた。資料集にも写真を含めて詳しく書かれているが、やはり「映像はエイぞー」と。

もう一つは、自己紹介をかねて、本集会への関わりなどを率直に述べた。会場中央、私からよく見える所に林京香さんが参加していた。じっと私を見つめるように。それで京香さんとの出会い、人工呼吸器をつけて地域の学校で元気に学ぶ京香さんを紹介した。「京香さんを光に」して、障害のある人たち、とりわけ「ともに学ぶ」ことに、次第に関心をもつようになったと。

（2018 年 9 月 21 日）